

## 令和元年度第2回人間文化研究機構教育研究評議会 議事概要

- 日 時： 令和元年11月21日(木) 14:00~16:10
- 場 所： 国際日本文化研究センター第1共同研究室
- 出席者： 荒木、大塚、岸上、木部、キャンベル、窪田、久留島、小松、酒井、佐藤(信)、佐藤(友)、田窪、谷川、谷口、野家、林部、平井、平川、三田村、安成、吉田(和)、吉田(憲)、劉の各評議員
- 陪席者： 李理事、二ノ宮監事、山本事務局長、大崎機構長特別顧問
- 事務局： 歴博、国文研、国語研、日文研、地球研及び民博の各管理部長、本部事務局の総務課長、企画課長、財務課長、施設課長、その他関係職員

### ○ 概 要：

議事に先立ち、事務局から、会議の定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認があった。

### 議 題：

#### (議事概要)

##### (1) 令和元年度第1回議事概要について(資料1)

機構長から、令和元年度第1回教育研究評議会の議事概要について報告があった。

#### (審議事項)

##### (1) 国立歴史民俗博物館次期館長の選考について(資料2)

機構長から、資料2に基づき国立歴史民俗博物館長が令和2年3月31日限りで任期が満了することに伴い、教育研究評議会の意見聴取を行う旨の説明があった。

続いて、事務局から、当該機関の運営会議における次期館長候補者の選考の概要及び候補者として推薦された者等について説明があった後、意見聴取が行われた。

意見聴取の結果、特段の意見が無かったことを受け、機構長から選考手続きを進めていく旨の発言があった。

##### (2) 国際日本文化研究センター次期所長の選考について(資料3)

機構長から、資料3に基づき国際日本文化研究センター所長が令和2年3月31日限りで任期が満了することに伴い、教育研究評議会の意見聴取を行う旨の説明があった後、意見聴取が行われた。

意見聴取の結果、特段の意見が無かったことを受け、機構長から選考手続きを進めていく旨の発言があった。

#### (報告事項)

##### (1) 平成30事業年度業務実績評価について(資料無し)

岸上理事から、平成30事業年度に係る業務の実績に関する評価について報告があった。

##### (2) 令和2年度概算要求の状況について(資料4)

窪田理事から、資料4に基づき、令和2年度概算要求の状況について報告があった。

##### (3) 人間文化研究機構における研究費の不正使用について(資料5)

岸上理事から、資料5に基づき、人間文化研究機構における研究費の不正使用に係る調査結果について報告があった。

##### (4) 総合人間文化研究推進センターにおける実施事業について(資料6)

窪田理事から、資料6に基づき、総合人間文化研究推進センターにおける実施事業について報告があった。

(5) 総合情報発信センターにおける実施事業について（資料7）

佐藤理事から、資料7に基づき、総合情報発信センターにおける実施事業について報告があった。

(6) 人間文化研究機構とベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学との学術交流協定の締結について（資料8）

李理事から、資料8に基づき、人間文化研究機構とベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学との学術交流協定の締結について報告があった。

(7) 第1回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者の決定について（資料9）

佐藤理事から、資料9に基づき、第1回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者の決定について報告があった。

(8) 「人文知応援フォーラム」の設立について（資料10）

機構長から、資料10に基づき、「人文知応援フォーラム」の設立について報告があった。

(意見交換)

(1) 視察後の意見交換（国際日本文化研究センター）

教育研究評議会の前に実施した国際日本文化研究センターの視察について、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

- ・ 日文研らしい的の絞り方で日本の文化を捉えている。また当初の意図どおり、外国に対する発信が非常に充実しており、それらを組織的に行っていることに感銘した。

(2) 平成30年度の事業報告について（資料11）

岸上理事から、資料11に基づき、平成30年度に機構が実施した事業等の概略について報告があった。続いて、歴博副館長の林部評議員から「大学共同利用機関における博物館展示」、民博館長の吉田（憲）評議員から「聖心女子大学公募型メディア展示」についてそれぞれ説明があり、その後意見交換が行われた。

主な意見は以下のとおり。

- ・ それぞれの発表を聞き、頭で考えることと実践することの距離が非常に近くなっていると感じた。

以上